

1 回生 川副史郎さん (伊万里市)



伝統を守る新たな挑戦

—先人たちの思いを後世に—

原動力は

地元・焼き物への愛

現在、伊万里市の大川内山にある窯元の多くは、「鍋島焼」という将軍家などへの献上品をルーツとする様式の窯元で、非常に手の込んだ繊細な絵付けが特徴です。私も小さいころから見慣れたこの伝統的な様式が大好きで、後世に残していきたいと考えています。父から家業を継げと言われたことはありませんが、魔法みたいに作品を作り上げていく父の姿やそれを手に取ったお客さんが喜んでいる姿を見ているうちに、自然とこの職業は残さないといけないという思いが育っていったのでしょう。「鍋島焼」を残すために、ニーズを正確に捉えそれを形にすることを目指しています。その際には多くのスタッフの力が不可欠です。以前博報堂という広告会社で働いた経験を通して学んだことが今も活かされています。すべての経験が今の自分を作っているのだと実感しています。

400年の時を超え

伝統を受け継ぐ

2016年は肥前地区磁器発祥 400周年ということで、伊万里・有田などの焼き物を世界に発信するプロジェクトに参加し、海外デザイナーとコラボして開発した商品をイタリアのミラノで発表しました。これは自身の焼き物に対する考え方に影響を与える貴重な経験となりました。今は、国内外のデザイナーの商品や、3D プリンターや切削機を使った形状開発など新たな領域や技術にも取り組んで視野を広げています。自分なりの新しい「鍋島焼」を確立し、現代のライフスタイルに合った焼き物を開発することはお客さんのためでもあります。自分が愛する伝統的な「鍋島焼」を残していくためにも必要なことだと考えています。「伝統」と簡単に言いますが、これは先人たちの挑戦と努力、苦勞の遺産です。それを残すことへの誇りと責任を感じながら私も挑戦を続けていきます。

- 1987年 4月 弘学館高校入学
- 1990年 3月 弘学館高等学校卒業
- 1990年 4月 慶應義塾大学環境情報学部入学
- 1994年 3月 慶應義塾大学環境情報学部卒業
- 1994年 4月 (株)博報堂入社
- 2006年 3月 (株)博報堂退職
- 2006年 4月 (株)川副青山入社
- 2006年 4月 (株)川副青山代表取締役

(2018年3月現在)



期間限定の子供用食器

川副史郎さんのとある一日

8:00 出社

9:00 工場全体の作業工程確認

10:00 製造作業・試作作業

13:00 協力会社との打ち合わせ

16:00 商社との打ち合わせ

18:00 書類作成など

21:00 帰宅

後輩へのメッセージ

1回生として弘学館に入学した時をはじめ、大学進学、就職、そして今も新しい世界への挑戦を続けています。新たな挑戦をするときは緊張するし大変ですが、真剣に取り組めば助けてくれる人もたくさん出てきます。失敗を恐れず、色々な手法や切り口に挑戦して行ってほしいと思います。「熱い気持ち」と「こだわり」は、職人の世界に限らずどんな職業でも必要なことです。今、自分の中に「やってみよう」という気持ちがあるならば恐れず挑戦しましょう。